

令和5年度

一般社団法人 燃料電池開発情報センター 総会
資料

令和5年9月7日（木）

御茶ノ水 ソラシティ カンファレンスセンター



一般社団法人 燃料電池開発情報センター

東京都千代田区神田淡路町一丁目19番地（お茶の水ビジネスビル 1階）

電話 03-6206-0231

令和5年度（一社）燃料電池開発情報センター
定時総会議案 目次

第1号議案 令和4年度事業報告の件

第2号議案 令和5年度事業計画の件

第3号議案 役員選任の件

令和4年度事業報告

自 令和 4年 7 月 1 日
至 令和 5年 6 月30 日

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化することで、益々エネルギー安全保障上の危機が高まっている。EUでは、ロシア産化石燃料への依存を近い将来ゼロにするとともに、再生可能エネルギーへの移行を加速する政策が打ち出されており、代替エネルギーとしての水素への転換に向けて急激な加速政策がもたらされている。米国においても、脱CO2には水素が必須と位置付けられ、大きな投資が国レベルで計画されている。一方で、チェルノービリやザポリージャの原発が軍事攻撃の対象となっており、今後はあらゆるリスクを念頭に置いた原発の運用が望まれる。また、日本国内でもエネルギー価格が高騰しており、これを引き金にした食糧品など生活必需品の物価上昇が大きな注目を集めている。

FCDICでは、5月のシンポジウムにおいて、ヨーロッパ・アメリカ・中国に加えてインドの燃料電池・水素に関わる最新動向をMETI様およびNEDO様から特別講演頂き、ウクライナ危機の中、ヨーロッパ・アメリカではエネルギー転換に向けた大きな動きがあることが報じられた。一方で、チリや中東などの再生可能エネルギーが潜在的に豊富な地域では、この機を逆手にとってグリーン水素の輸出大国となる戦略を打ち出しており、こういったEUや米国域外の地域も含めて、新たなエネルギー源としての水素をめぐる各国のそれぞれの思惑と強い本気度が感じられる。

今後、FCDICにおいても脱化石燃料に向けた世界的な潮流を受けて、会員ニーズに基づいた燃料電池・水素の情報収集や発信を積極的に行い、燃料電池の更なる普及拡大を目指した研究会など、新たな取り組みを実施していきたい。

以下、1年間の活動報告を記す。

会員数は、正会員、学会員、海外会員それぞれ入退会による増減があり、減少は14機関(名)であったが、正会員、学会員、特別会員で15機関の増加があり、トータルでは1機関の増加であった。

総会、理事会、幹事会、並びに研究会、見学会、講習会、シンポジウム、各種広報出版などの定常的な事業活動は、ほぼ予定通り実施出来たが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、見学会と交流会を伴う研究会(講演会)を除く活動のほとんどは、対面とリモートとの併催で対応してきた。FCDIC最大の行事である5月のシンポジウムについても、口頭発表については、対面とリモートの併催で実施した。

令和4年度決算については、昨年9月の総会に伴う交流会時の飲食提供を中止したこと、行事等のリモート開催に伴う出張旅費等の削減に伴い、支出が1,565,160円予算額を下回った。その結果、令和4年度の収支差額は、2,597,500円の赤字予算に対して、1,659,017円の黒字となった。翌年度繰越収支差額は63,849,902円となった。

以下に令和4年度の各活動の概要を報告する。

I 会員数

	令和3年度末 (令和4年6月30日現在)				令和4年度末 (令和5年6月30日現在)
		入会	退会	増減差	
正会員	98 (96)	5	2	3	101 (99)
公共会員	2	0	1	-1	1
学会員	79	7	8	-1	78
海外会員	7	0	3	-3	4
特別会員	5	3	0	3	8
合計	191 (189)	15	14	1	192 (190)

注1) カッコ内は会費を納めている会員数。相互に団体加入あるいは相互に情報交換等の契約で、正会員2機関が会費免除。

注2) 海外会員の会員期間は毎年1月～12月。

第1号議案

II 活動状況

1 開催行事

1.1 研究会の開催

下記2回の講演会、2回の見学会を実施した。

- ① 第165回研究会（講演会）：令和4年9月7日（水）、総会・理事会・交流会と併催
・場所：ソラシティーカンファレンスセンター（対面で実施）、参加者数：62名
・講演：「NEDOにおける燃料電池・水素の開発状況」：坂 様（NEDO）
「日本のエネルギー戦略と水素・燃料電池」：橋川 先生（国際大学）
- ② 第166回研究会（見学会）：令和4年10月12日（水）、12:50 新神戸駅集合（チャーターバス移動）
・川崎重工さんのご協力により、神戸ポートアイランドの水素設備を見学
・参加者：18名（定員：20名）
- ③ 第167回研究会（講演会）：令和5年1月24日（火）、理事会・賀詞交歓会と併催
・場所：連合会館203会議室（対面で実施）、参加者数：65名
・講演：「私見：SOFCの将来展望—低温化と多様化—」：横川 先生
「技術研究組合FC-Cubic -プラットフォームの活動のご紹介-」：FC-Cubic 小島 様
- ④ 第168回研究会（見学会）：令和5年3月22日（水）PM（HESSと合同開催）
・見学場所：パナソニック（株）RE100実証設備・水素ステーション見学（滋賀県草津）
燃料電池工場の見学は、年度末で工場未稼働のため中止
・参加人数：FCDIC 21名、HESS 17名、募集人数が少ないため1名／機関とした

1.2 セミナー・講習会の実施

下記のセミナーおよび講習会を実施した。

- ① 第38回セミナー 令和4年11月16日（水）10:00～18:00（但し17:10～18:00は名刺交換会）を実施
・場所：連合会館203会議室での対面とリモートとのハイブリッドで開催
・参加申込者：約100名
・講演：「ティッセンクルップ・ニューセラが提供する産業用スケールの水電解装置およびプロジェクトのご紹介」 ティッセンクルップ・ニューセラ（株） 村山 凡子 様
「AGCにおける水電解用膜と食塩電解の開発状況」 AGC（株） 早部 慎太郎 様
「大型・商用モビリティ用燃料電池の動向と技術開発ロードマップ」
みずほリサーチ&テクノロジーズ（株） 米田 雅一 様
「ENEOSのカーボンニュートラル戦略」 ENEOS（株） 佐藤 康司 様
「パナソニックにおける水素及び燃料電池事業の取り組み」
パナソニック（株） 四十住 祐介 様
「水素の貯蔵と配送に向けた日本縦断水素パイプライン カarbonニュートラルに向けた基本インフラ」（※ リモート講演） （株）HyWealth 広瀬 雄彦 様
- ② 第34回寺子屋式講習会 令和4年12月14日（水）10:00～17:00
・場所：連合会館201会議室、セルの組立実習も予定のため、対面のみで実施
・参加者数：28名
・講師候補：PEFC基礎（横国大 石原 先生）、SOFC基礎（産総研 石山 様）、
燃料電池に関する特許の重要性（特許庁 太田 様）、概要（FCDIC 羽藤）
- ③ 第35回寺子屋式講習会 令和5年6月7日（水）13:00～17:00
・場所：連合会館401会議室、対面とリモートのハイブリッド開催
・参加人数：39名（内会場参加：15名）
・講師：PEFC基礎（横国大 石原 先生）、SOFC基礎（産総研 石山 様）、概要（FCDIC 羽藤）

1.3 燃料電池シンポジウムの開催

FCDIC主催の第30回燃料電池シンポジウムは令和5年5月25日（木）～26日（金）にタワーホール船堀の会場とリモートのハイブリッドで実施した。新型コロナウイルスが5類になったため、第26回以降久しぶりに交流会

第1号議案

を開催した。講演数は特別講演などの招待講演を含め、計44件、参加者総数は、約400名であった。

ポスター発表については、学生の発表について優秀ポスター賞の選考を実施した。3名の優秀ポスター賞を選定して、交流会において表彰を実施した。また、燃料電池機関誌春号（4月30日発行）にて告知を行い、機関誌の投稿論文に招待することとした。

1.4 交流会、賀詞交歓会の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、令和4年度の総会と併催の交流会では、飲食の提供を中止した。賀詞交歓会においても通常の立食式の賀詞交歓会ではなく、弁当配布の着席方式で交歓会を実施した。一方で、セミナーなどにおいて、飲食を伴わない名刺交換会・情報交換会を実施し、会員相互の懇親・情報交換を図った。

2 広報・出版

2.1 機関誌「燃料電池」の発行

機関紙「燃料電池」を季毎に4回発行して配布し、その時々々の燃料電池の最新技術を会員に紹介した。以下に各号の特集および頁数を記す。

- ・「燃料電池」夏号 Vol. 22 No. 1、2022 特集「海外における燃料電池・水素の状況」92頁
- ・「燃料電池」秋号 Vol. 22 No. 2、2022 特集「地方自治体における燃料電池・水素への取り組み」96頁
- ・「燃料電池」冬号 Vol. 22 No. 3、2023 特集「燃料電池用水素燃料の調達について」92頁
- ・「燃料電池」春号 Vol. 22 No. 4、2023 特集「SOFC/SOECの研究開発・利活用の現状」99頁

2.2 「FCDIC Report」の発行

海外会員には「FCDIC Report」を隔月にメール配信を行った。今年度からは、FCDICホームページに掲載予定。

2.3 年報の発行

2022年度版年報「日本における燃料電池の開発」（185頁）を和文と英文で一冊に集約して発行した。内容は、日本の燃料電池開発状況概観、燃料電池における国家プロジェクトの現状、各業界・特別会員・公共会員の活動状況、各機関の開発・活動状況の他、会員の発表論文一覧、FCDICの主な活動、FCDIC会員名簿、および国際標準化、水素ステーション情報、燃料電池用語集からなる資料編で構成した。発行はWEBサイトからPDFをダウンロードする形式であり、外販も行っている。

2.4 FCDIC ウェブサイト

2023年2月からFCDICのホームページをより多くの方々に閲覧頂けることを目指して、より分かりやすくかつシンプルにリニューアルした。燃料電池に関連するシンポジウム、セミナー、機関誌、FCDIC Report、研究会などを適宜項目毎に分割して情報を発信している。

2.5 展示会出展

FC EXPO 2022秋と2023春において、ブースにて展示を行い、FCDICの活動を広く一般に広報した。FC EXPOは、今後H2&FC EXPOに名称を変更する。

3 50年後の燃料電池を考えるWG活動

本格普及に向けて開発が進められている燃料電池の将来あるべき姿・期待を議論しまとめるWGを組織し活動しており、一昨年の第28回燃料電池シンポジウムでは、機関誌に寄稿頂いた各種燃料電池の現状と展望を纏めてパネルディスカッションを実施した。これを踏まえて、今後50年後の燃料電池WGの進め方を継続検討している。

2050年にカーボンニュートラルとする計画が発表され、50年後（2070年頃）の燃料電池のあるべき姿を議論しても遅すぎることから、WGの名称を「夢の燃料電池10」に変更することとした。

また、本作業部会のコンセプトの再設定について議論し、夢の燃料電池の姿（燃料電池を利用する上での水素を含む）をリストアップし、FCDICのホームページで公開し、このリストを多くの研究者に参考いただき、今後

第1号議案

の研究開発の参考としていただくこととした。

また、キャッチーな「夢の燃料電池」を表すネーミングと、必要な場合ネーミングの意図を解説することとした。更に夢を達成するために必要と思われる技術を掲載し、ブレークダウンが必要と思われる技術については、更に技術の内容を記載・解説することとした。

<ネーミング案>

- 1) エンジンより安い燃料電池（移動体用及び定置用）
- 2) 燃料電池豪華客船で世界一周（本来スケールメリットがないことが燃料電池の特徴であるが、例えばGW以上の大容量でもエンジンよりコンパクトな超高エネルギー密度を実現する燃料電池）
- 3) どこでも使える燃料電池（極地や高山や温泉地、臨海地域でも使える）
- 4) ずっと使える燃料電池
- 5) どんな燃料でも使える燃料電池（アンモニア、炭化水素系燃料等を直接燃料として利用できる燃料電池）
- 6) 給湯器より安いエネファーム
- 7) リサイクルできる燃料電池
- 8) どんな燃料より安いグリーン水素

以上を最初の案とし、今後ブラッシュアップしていく。

4 共催・協賛・後援

以下に承認した共催・協賛・後援行事を列举する。

令和4年7月1日～令和5年6月30日にご依頼をいただいたイベント等を掲載しております。開催日が今期とは限りません。

共催

第13回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー

主催：一般社団法人触媒学会 燃料電池関連触媒研究会

開催日：2022年11月25日（金）～11月26日（土）

場所：東レ総合研修センター

H2 & FC EXPO【秋】2023～国際水素・燃料電池展【秋】～

H2 & FC EXPO【春】2024～国際水素・燃料電池展【春】～

主催：RX Japan 株式会社

開催日：2023年9月13日（水）～9月15日（金）「H2 & FC EXPO【秋】2023」

2024年2月28日（水）～3月1日（金）「H2 & FC EXPO【春】2024」

場所：幕張メッセ（H2 & FC EXPO【秋】2023）

東京ビッグサイト（H2 & FC EXPO【春】2024）

協賛

SOEC 課題共有フォーラム

—高温電解技術の普及に向けて 産業界とアカデミアが結集— カarbonニュートラルへの貢献—

主催：SOFC 研究会、燃料電池実用化推進協議会

開催日：2022年11月17日（木）

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋およびオンライン配信

2022 合同 WEB 討論会（～第46回電解技術討論会-ソーダ工業技術討論会、

第42回水素エネルギー協会大会、2022HESS 特別講演会～）

主催：一般社団法人水素エネルギー協会、公益社団法人電気化学会 電解科学技術委員会

開催日：2022年11月17日（木）～11月18日（金）第46回電解技術討論会-ソーダ工業技術討論会-

2022年11月28日（月）～11月29日（火）第42回水素エネルギー協会大会

2022年11月30日（水）2022HESS 特別講演会

場所：ハイブリッド（対面；コンパホール、大分市（11月17日～11月18日）

第1号議案

タワーホール船堀（11月28日～11月29日、11月30日）

エネルギー技術対策委員会 2022年度 主催講演会

「日本における将来のエネルギーのあり方～エネルギー危機の時代におけるレジリエンス強化～」

主催：一般財団法人大阪科学技術センター エネルギー技術対策委員会

開催日：2022年12月12日（月）

場所：大阪科学技術センター4階401号室およびオンライン開催（zoom）

第31回SOFC研究発表会

主催：SOFC研究会

開催日：2022年12月15日（木）～12月16日（金）

場所：対面-Web ハイブリッド方式（対面会場；TKP 東京駅カンファレンスセンター）

燃料電池・FCH部会 2022年度公開シンポジウム

主催：一般財団法人大阪科学技術センター 燃料電池・FCH部会

開催日：2023年1月26日（木）

場所：大阪科学技術センター 8階中・小ホールおよびオンライン（Zoom）、7F レストラン（交流会）

第17回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム

主催：特定非営利活動法人再生可能エネルギー協議会

開催日：2023年2月1日（水）～2月3日（金）

場所：東京ビッグサイト 東ホール

固体酸化物エネルギー変換先端技術コンソーシアム 第二期（ASEC-2）公開シンポジウム 2023

主催：国立研究開発法人産業技術総合研究所

固体酸化物エネルギー変換先端技術コンソーシアム第二期（ASEC-2）

開催日：2023年3月1日（水）

場所：オンライン開催（Cisco Webex 利用）

電気化学会関東支部 2023年関東支部セミナー

1から学ぶ電気化学のいろは（原理からアプリケーションまで）

主催：公益社団法人電気化学会 関東支部

開催日：2023年5月19日（金）～6月5日（月）

場所：オンライン（オンデマンド配信）

第6回電動車両技術国際会議

主催：公益社団法人自動車技術会

開催日：2023年5月22日（月）～5月24日（水）

場所：パシフィコ横浜ノースおよびオンライン併用

日本セラミックス協会 第36回秋季シンポジウム特定セッション

「エネルギー変換・貯蔵・輸送セラミックス材料の基礎と応用」

主催：公益社団法人日本セラミックス協会

開催日：2023年9月6日（水）～9月8日（金）

場所：京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス

21st International Conference on Solid State Proton Conductors (SSPC-21)

主催：SSPC-21 実行委員会

開催日：2023年9月17日（日）～9月22日（金）

場所：九州大学 西新プラザ

第1号議案

第64回電池討論会

主催：公益社団法人電気化学会 電池技術委員会
開催日：2023年11月28日（火）～11月30日（木）
場所：大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）

後援

九州水素・燃料電池フォーラム & 水素先端世界フォーラム2023

主催：経済産業省九州経済産業局、九州知的財産活用推進協議会、
九州大学 水素材料先端科学研究センター、九州大学 エネルギー研究教育機構(Q-PIT)、
福岡県水素グリーン成長戦略会議

開催日：2023年2月2日（木）～2月3日（金）
場所：九州大学 病院キャンパス百年講堂+オンライン配信（You Tube Live）

NRW- Japan business and Investment Seminar

主催：株式会社エヌ・アール・ダブリュージャパン
開催日：2023年3月16日（木）
場所：東京ベイ有明ワシントンホテル 3F「アイリス」

課題解決 EXPO2023 エコテクノ 2023 ～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～（第28回）

主催：福岡県、北九州市、公益財団法人北九州観光コンベンション協会
開催日：2023年7月5日（水）～7月7日（金）
場所：西日本総合展示場 新館

MRM2023/IUMRS-ICA2023, Symposium B-2 “Advanced Analysis for Fuel Cell Materials and Technologies”

主催：The Materials Research Society of Japan (MRS-Japan)
開催日：2023年12月11日（月）～12月16日（土）
場所：国立京都国際会議

協力

特許庁任期付職員（特許審査官補）の採用について

募集元：特許庁
応募締切日：2022年11月16日（水）受信有効（郵送の場合：2022年11月16日（水）消印有効）

第9回 FC-Cubic オープンシンポジウム

主催：技術研究組合FC-Cubic
開催日：2022年11月17日（木）
場所：Web オンライン開催（双方向接続/ストリーミング配信併用）

燃料電池・水素技術開発ロードマップ報告会

主催：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
開催日：2023年2月9日（木）
場所：オンライン開催（Cisco Webex を使用）

ミッションイノベーション クリーン水素ミッションワークショップ

水素安全のための水素検知技術 -国際協調の可能性の探索-
主催：経済産業省
開催日：2023年3月17日（金）
場所：ベルサール虎ノ門およびオンライン（WebEX）

第1号議案

第10回 FC-Cubic オープンシンポジウム

主催：技術研究組合FC-Cubic

開催日：2023年3月23日（木）

場所：Web開催（Webex 及び YouTube ストリーミング）

公益信託ENEOS水素基金2023年度

募集元：三井住友信託銀行株式会社

応募締切日：2023年5月10日（水）必着

NEDO水素・燃料電池成果報告会2023

主催：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

開催日：2023年7月13日（木）～7月14日（金）

場所：パシフィコ横浜 アネックスホールおよびオンライン併用

5 顕彰制度

産業貢献賞、学術賞および奨励賞について、令和4年7月～8月に募集を行った。選考委員会での審議結果に基づき、幹事会および理事会で了承が得られ、受賞者は以下の通りとなった。第30回燃料電池シンポジウムにおいて、表彰式および受賞記念講演を実施した。

1. 産業貢献賞

・業績題目：「家庭用燃料電池エネファーム 累計生産台数20万台の達成」
受賞機関：パナソニック（正会員）

・業績題目：「我が国燃料電池開発における富士電機（株）の役割」
受賞機関：富士電機（正会員）

2. 学術賞

・業績題目：「活性と耐久性を両立した水素・燃料電池用電極触媒の創製と評価」
受賞者：山梨大学 柿沼 氏（学会会員）

3. 奨励賞

・業績題目：「金属酵素に学ぶ電極触媒の役割と開発」
受賞者：北海道大学 加藤 氏（学会会員）

Ⅲ 決算の概要

令和4年度については、会費収入はほぼ維持するとともに、シンポジウム等のイベントの参加費収入はほぼ例年通りの目標値を設定して積み上げた結果、予算収入を34,086,500円とした。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することとして、前年度の予算をベースに検討を行い、36,684,000円とし、2,597,500円の赤字予算とした。

以下、実績について説明する。

まず収入については、会費収入はほぼ予算通りであったが、イベント等の参加費収入については、シンポジウムの参加人数が昨年よりやや増加したことからシンポジウム費が増収となった。また、東京都のテレワーク助成金の申請を実施しPCの購入補助費を支給頂いたり、NEDO様の再委託費や共済協力金などの雑収入が増収となった。その結果、令和4年度の収入予算額34,086,500円に対し、収入の決算額が36,777,857円となり、収入については令和4年度予算額に対し、2,691,357円の増収となった。

一方、支出については、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大が収束していなかったため、総会と併催した交流会の飲食の提供を中止したことなどから、渉外費が減少となった。その結果、令和4年度の支出予算額

第 1 号議案

36,684,000円に対し、決算支出合計は、予算より1,565,160円少ない35,118,840円となった。

以上の結果、令和4年度2,597,500円の赤字予算額に対し、決算額は1,659,017円の黒字となった。この結果、翌年度繰越収支差額は63,849,902円となった。

令和4年度決算案を別紙に示す。

令和4年度決算報告書

自 令和4年7月 1日

至 令和5年6月30日

正味財産増減計算書

(単位:円)

項 目	令和4年度予算額	決算額	備 考
収益			
1. 会費	24,436,000	24,244,000	
(1)正会員会費	23,280,000	23,200,000	会員数101
(2)公共会員会費	120,000	120,000	会員数1
(3)海外会員会費	420,000	300,000	会員数4
(4)学術会員会費	616,000	624,000	会員数78
2. シンポジウム費	4,000,000	5,174,400	参加費、交流会費、展示会費等
3. 講習会参加費	2,600,000	2,177,000	セミナー、寺子屋参加費
4. 資料頒布	50,000	16,500	講習会テキスト、年報等
5. 機関誌頒布	800,000	893,430	燃料電池誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	2,200,500	4,272,527	預金利子、共催協力金、PC購入補助金等
本年度収益計(A)	34,086,500	36,777,857	

(単位:円)

項 目	令和4年度予算額	決算額	備 考
費用			
1. 会議・会場費	3,380,000	3,213,464	セミナー・講習会・シンポジウム・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	2,300,000	2,112,418	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	2,050,000	803,777	賀詞交歓会費、シンポジウム交流会費
4. 旅費交通費	1,357,000	911,492	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	3,420,000	3,875,784	年報翻訳、シンポジウムWEB申込サイト構築、 HPリニューアル
6. 諸謝金	1,870,000	1,571,954	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	310,000	178,525	学会参加費、各種団体会費他
8. 新聞図書費	60,000	2,970	書籍代他
9. 事務用品費	144,000	133,174	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	80,713	消耗品
11. 通信運搬費	710,000	546,292	郵送代、電話料、Web管理費、 メールボックス使用料他
12. 支払手数料	400,000	446,181	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当・賞与	12,350,000	13,196,925	職員給与・賞与
14. 臨時賃金	200,000	159,581	シンポジウムアルバイト雇用代
15. 法定福利費	1,520,000	1,487,248	社会保険料
16. 公租公課	100,000	80,000	法人税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	52,794	健康診断補助他
18. 借室費	4,116,000	3,876,084	家賃
19. 光熱費	240,000	317,885	水道光熱費
20. リース費	852,000	850,800	複合機、セキュリティーサーバー他
21. 賃借料	230,000	160,030	バスチャーター代、レンタルPC代
22. 事務所整備費	400,000	496,604	Zoom導入費用、PC購入、什器備品他
23.退職金	0	0	退職慰労金
24. 雑費	400,000	564,145	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他、 寺子屋組立キット購入他
25. 予備費	100,000	0	
本年度費用計(B)	36,684,000	35,118,840	
本年度収支差額(A)-(B)	-2,597,500	1,659,017	
前年度正味財産額(C)	62,190,885	62,190,885	
翌年度繰越正味財産期末残高 (A)-(B)+(C)	59,593,385	63,849,902	

貸借対照表

令和5年6月30日現在

(単位:円)

資産の部		負債および正味財産の部	
項目	金額	項目	金額
【流動資産】	66,851,725	【流動負債】	5,217,823
現金	57,567	前受金	4,376,000
普通預金	45,879,961	源泉税預り金	288,868
定期預金	20,000,000	住民税預り金	24,400
未収入金	10,000	未払費用	528,555
前払費用	904,197		
【固定資産】	2,216,000	【正味財産】	63,849,902
敷金	2,000,000		
電話加入権	216,000	(内当期正味財産増加額)	63,849,902
合計	69,067,725	合計	69,067,725

財産目録

令和5年6月30日現在

(単位:円)

項目	金額	備考
資産の部		
【流動資産】		
現金	57,567	手元現金
預金	65,879,961	
(内 訳)		
みずほ銀行 神田支店	3,621,059	普通 主預金通帳
同 上	21,935,224	普通 燃料電池シンポジウム用通帳
同 上	13,957,134	普通 燃料電池講習会用通帳
同 上	10,000,000	定期 預金
三井住友銀行 神田支店	5,841,255	普通 会費振込用通帳
同 上	10,000,000	定期 預金
PayPal	525,289	決済サービス 海外取引用
未収入金	10,000	シンポジウム参加費
前払費用	904,197	セミナー・総会等会場費他
【固定資産】		
敷金	2,000,000	事務所敷金
電話加入権	216,000	事務所電話 03-6206-0231 ファクシミリ 03-6206-0232
合 計	69,067,725	
負債の部		
前受金	4,376,000	令和5年度会費前受金
源泉税預り金	288,868	源泉所得税預り金
住民税預り金	24,400	住民税預り金
未払費用	528,555	会場費、事務用品購入費等
合 計	5,217,823	
差引正味財産	63,849,902	

令和4年度事業報告・決算報告に関する監事の意見

令和4年度事業報告・決算報告について監査した結果、
適法かつ妥当であることを認めます。

令和5年7月26日

監事 神谷 信行

監事 小関 和雄

監事 横川 晴美

令和5年度事業計画の件

自 令和5年 7 月 1 日
至 令和6年 6 月30 日

本年2月には、NEDOから「FCV・HDV用燃料電池技術開発ロードマップ」の改訂版が発表された。世界中で水素・燃料電池関連の技術開発および社会実装に向けた取組が大きく加速している中、大型トラックやバス、船舶、鉄道等、移動体用燃料電池の多用途展開と、より大型の移動体用として燃料電池への期待が高まっている。HDV用途としては、従来の乗用車等と比べて、より高い耐久性、作動温度の高温化、より長い航続距離や搭載性、コスト削減等が求められており、その目標達成のためには、従来にない非連続な技術開発も求められている。

トップランナーである日本の燃料電池産業が、今後も継続的に成長できるよう、FCDICにおいては世界の最先端の燃料電池・水素分野の動向をタイムリーに発信して行けるよう、引き続き取り組みを実施していきたい。

今年度の活動の主なものは次のとおりである。

I 活動計画

1 開催行事

1.1 総会・交流会、賀詞交歓会

令和5年度総会を令和5年9月7日（木）に、賀詞交歓会を令和6年1月30日（火）に開催する。総会時には交流会を催し、賀詞交歓会と共に会員相互の親睦を図る場とする。

1.2 第31回燃料電池シンポジウム

令和6年5月23日（木）、24日（金）に開催の予定である。

1.3 研究会

講演会を年2回、見学会を年2回程度予定している。講演テーマ、見学場所等の選定は会員の要望を踏まえ、企画委員会にて検討していく。

1.4 セミナー・講習会

昨年好評を頂いた、水電解・水素のテーマに加えて、HDV戦略等に関するセミナーを本年11月15日（水）に開催する。初心者向け講習会(寺子屋式講習会)については、年 2回を予定している。

2 広報・出版

2.1 機関誌「燃料電池」の発行

燃料電池に特化した学術雑誌（年4回発行）として、内外の動向に応える内容でPDF版として発行を継続する。

2.2 2023年度版年報「日本における燃料電池の開発」の発行

日本における燃料電池の開発状況を、和文と英文で一冊に集約してPDF版として発行する。

2.3 「FCDIC Report」の発行 海外会員向けの情報として、「FCDIC Report」の発行を継続する。

2.4 ウェブサイトの充実

FCDICのホームページに会員専用サイトを設け、機関誌や年報や研究会テキストのPDF版をダウンロードしていただき、また、シンポジウムやセミナー等のタイムリーな情報発信の方法として今年度も見直しを実施する。本年2月より新しいホームページを公開済みである。

第2号議案

3 海外調査

重要度の高い国際会議に出席し、燃料電池関連情報を機関誌等に報告する。

4 共催・協賛・後援

令和5年9月13日（水）～9月15日（金）、令和6年2月28日（水）～3月1日（金）と、東京で2回開催予定の国際水素・燃料電池展(H2&FC EXPO)に共催機関として参加すると共に、展示ブースにおいてFCDICの活動を展示し広報する。その他の共催・協賛・後援についても、幹事会の承認の下、積極的に引き受ける。

5 夢の燃料電池10 WG活動

50年後の燃料電池を考えるWGから名称変更し、本格普及に向けて引き続き開発が進められている燃料電池の夢の姿を議論しまとめる作業部会を実施する。また、本作業部会のコンセプトの再設定についても議論し、夢の燃料電池の姿（燃料電池を利用する上での水素を含む）をリストアップし、FCDICのホームページで公開し、このリストを多くの研究者に参考いただき、今後の研究開発の参考としていただくこととした。

6 グリーン水素研究会

コロナ禍の影響もあり昨年度中の開始ができなかった。活動報告の内容と方法を検討した上で、夢の燃料電池10との連携の仕方を含めて進め方を検討する。

7 顕彰制度

産業貢献賞、学術賞ならびに奨励賞の募集を7月～8月に行う。表彰式は第31回燃料電池シンポジウムでの挙行を予定している。

II 予算の概要

再生可能エネルギーをベースとする水素エネルギーシステムの構築に向けた動きは世界的な潮流になりつつあり、ウクライナ問題を受けて、特にヨーロッパ、アメリカにおいては、その動きがより急激に加速しつつある。今後は内外の水素・燃料電池普及に向けた活動は更に活発化するものと期待される。FCDICとしても、今後水素分野に関わる情報発信により積極的に取り組んでいきたい。

本年度は昨年度と同等レベルの92社の正会員数でスタートする。今年度は、例年並みの会員数やシンポジウム・セミナー等への参加者を期待して収入予算を積み上げ、34,242,500円の収入予算を組んだ。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することと、会員サービスの充実を目指して、今後も対面とリモートの併用での情報発信を進めるための外注費と事務所整備費を計上し、前年度の予算をベースに検討を行い、総額36,077,000円とし、1,834,500円の赤字予算とした。

令和5年度予算を別紙に示す。

令和5年度予算

自 令和5年7月 1日
至 令和6年6月30日

収支予算書

(単位:円)

項 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	令和4年度決算額	備 考
収入				
1. 会費	23,312,000	24,436,000	24,244,000	
(1)正会員会費	22,320,000	23,280,000	23,200,000	会員数92+途中入会
(2)公共会員会費	120,000	120,000	120,000	会員数1
(3)海外会員会費	240,000	420,000	300,000	会員数4
(4)学術会員会費	632,000	616,000	624,000	会員数76+途中入会
2. シンポジウム費	4,500,000	4,000,000	5,174,400	参加費、交流会費、展示会費等
3. 講習会参加費	2,300,000	2,600,000	2,177,000	セミナー、寺子屋参加費等
4. 資料頒布	30,000	50,000	16,500	講習会テキスト、年報等
5. 機関誌頒布	800,000	800,000	893,430	燃料電池誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	3,300,500	2,200,500	4,272,527	預金利子、共催協力金等
本年度収入合計(A)	34,242,500	34,086,500	36,777,857	

令和5年度予算

(単位:円)

項 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	令和4年度決算額	備 考
支出				
1. 会議・会場費	3,580,000	3,380,000	3,213,464	セミナー・講習会・シンポジウム・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	2,390,000	2,300,000	2,112,418	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	2,050,000	2,050,000	803,777	総会交流会、賀詞交歓会費、 シンポジウム交流会費
4. 旅費交通費	1,280,000	1,357,000	911,492	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	1,640,000	3,420,000	3,875,784	翻訳、ウェブサイト構築他
6. 諸謝金	1,870,000	1,870,000	1,571,954	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	300,000	310,000	178,525	学会参加費、各種団体会費他
8. 新聞図書費	50,000	60,000	2,970	書籍代他
9. 事務用品費	144,000	144,000	133,174	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	100,000	80,713	消耗品
11. 通信運搬費	680,000	710,000	546,292	郵送料、電話料、Web管理費、 メールボックス使用料他
12. 支払手数料	496,000	400,000	446,181	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当・賞与	13,248,000	12,350,000	13,196,925	職員給与
14. 臨時賃金	180,000	200,000	159,581	アルバイト雇用代
15. 法定福利費	1,622,000	1,520,000	1,487,248	社会保険料
16. 公租公課	100,000	100,000	80,000	法人税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	75,000	52,794	健康診断補助他
18. 借室費	3,900,000	4,116,000	3,876,084	家賃
19. 光熱費	360,000	240,000	317,885	水道光熱費
20. リース費	852,000	852,000	850,800	複合機、セキュリティーサーバー他
21. 賃借料	220,000	230,000	160,030	バスチャーター代他
22. 事務所整備費	400,000	400,000	496,604	Zoom導入費用、什器備品他
23.退職金	0	0	0	退職慰労金
24. 雑費	440,000	400,000	564,145	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険 寺子屋組立キット購入他
25. 予備費	100,000	100,000	0	
本年度支出合計(B)	36,077,000	36,684,000	35,118,840	
本年度収支差額(A)-(B)	-1,834,500	-2,597,500	1,659,017	
前年度繰越収支額(C)	63,849,902	62,190,885	62,190,885	
翌年度繰越収支額 (A)-(B)+(C)	62,015,402	59,593,385	63,849,902	

令和5年度 役員選任の件

I 役員

理事	太田 健一郎	横浜国立大学名誉教授	(代表候補)
理事	佐藤 徳寿	東芝エネルギーシステムズ(株)	(副代表候補)
理事	三浦 一郎	(一社)日本ガス協会	(副代表候補)
理事	羽藤 一仁	(一社)燃料電池開発情報センター	(常任理事候補)
理事	佐藤 康司	ENEOS(株)	
理事	原 達範	大阪ガスマーケティング(株)	
理事	辰巳 国昭	(国研)産業技術総合研究所	
理事	石田 政義	筑波大学	
理事	麦倉 良啓	(一財)電力中央研究所	
理事	門 正之	東京ガス(株)	
理事	梅田 実	長岡技術科学大学	
理事	高野 純	(株)本田技術研究所	
理事	小林 由則	三菱重工業(株)	
新理事	雨宮 一樹	トヨタ自動車(株)	
新理事	可児 幸宗	パナソニックホールディングス(株)	
監事	神谷 信行	横浜国立大学	
監事	小関 和雄	元FCDIC 常任理事・前顧問	
監事	横川 晴美	東京大学 シニア協力員	

II 顧問

片岡 宏文 元東京ガス副社長・前 FCDIC 代表